

第三篇 支那事變ノ發端

第一章 蘆溝橋事件

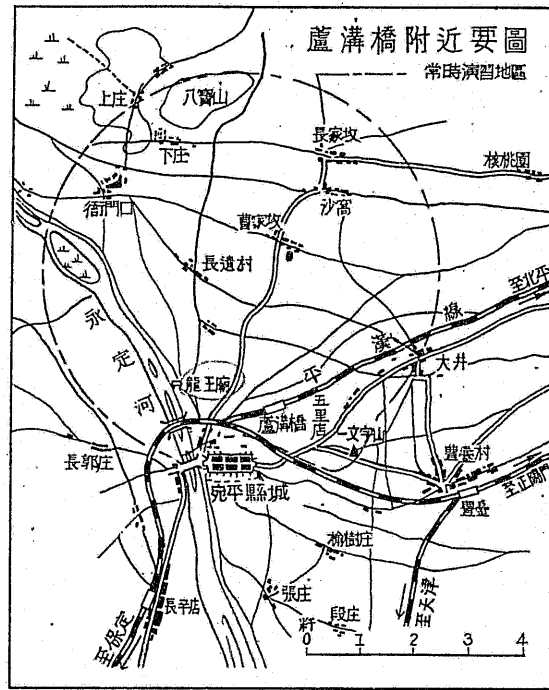
第一節 事件ノ經過竝ニ我が中央部ノ對策

第一項 事件ノ發生ト海陸軍ノ應急措置

七月七日蘆溝橋事件勃發ス

蔣介石ノ主宰スル國民政府ガ中央化ニ乗出シテヨリ、北支ニ於ケル支那軍ノ侮日氣勢、支那民衆ノ抗日色彩ハ益濃厚ト爲リ、日支間ノ風雲日ニ急ヲ加ヘツツアリシガ、果然昭和十二年七月七日深更北京郊外蘆溝橋附近ニ於ケル支那軍ノ不法射撃ニ端ヲ發シ、茲ニ北支事變ノ勃發ヲ見ルニ至レリ。

當時、我が支那駐屯軍平時編制ニ依ル步兵一箇旅團野戰重砲兵一箇聯隊基幹步兵第一聯隊第三大隊ハ北京郊外ナル豐臺ニ駐屯シ、其ノ一箇中隊ハ條約上ノ權利ニ基キ常ニ演習ヲ實施シアリシ蘆溝橋北方地區ニ於テ、豫メ支那側ニ通告シテ夜間演習ヲ實施中、午後十時四十分頃突如蘆溝橋駐屯ノ支那軍第二十九軍第三十七師第二百十九團ノ步兵約一箇大隊駐屯セリ。二七二頁ノ一附表第一參照ヨリ射撃ヲ受ケ、同中隊ハ直ニ之ニ應ズル準備ヲ爲スト共ニ、我が軍ハ事件不擴大ノ方針ノ下ニ一部ノ兵力ヲ蘆溝橋



支兩軍ハ事態ノ圓滿解決ノ爲、同日午前五時ヲ期シ蘆溝橋ニ在ル兩軍部隊ノ撤退ヲ約セリ。然ルニ支那軍ハ定刻ヲ過グルモ撤退ノ模様ナキノミナラズ却ツテ兵力ヲ増勢シ、監視中ノ我が部隊ニ對シ屢射撃ヲ加フル等不信行爲ヲ敢テセシガ、我が軍ノ嚴重ナル抗議ニ依リ遂ニ九日午後零時二十分ニ至リ永定河右岸ニ撤退セリ。本戰鬪ニ於テ我が軍ハ戰死二名、負傷十數名ヲ出シ、支那軍ハ遺棄屍體約二十、其ノ他死傷多數アリシガ如シ。

附近ニ集結シ、使ヲ支那軍ニ派シ、事實ノ承認ト謝罪其ノ他ニ就キ交渉セシメタリ。然ルニ支那軍ハ我が要求ニ應ゼザルノミナラズ、却ツテ蘆溝橋北方龍王廟附近ヨリ再ビ我ニ射撃ヲ加ヘ來リタルニ由リ、我が部隊ハ自衛上已ムナク初メテ之ニ應戰シタリ。然ル後モ我が軍ハ依然事件不擴大ノ方針ヲ堅持シテ其ノ後支那軍ト數次ノ交渉ヲ重ネタル結果、九日午前二時ニ至リ日

七月八日ニ
於ケル陸軍
中央部ノ對
處方針

本事件ノ發生ニ對シ七月八日ニ於ケル陸軍中央部ノ對處方針左ノ如シ。

一 事件不擴大ノ方針ハ從來出先ニハ十分徹底シアルヲ以テ今ノ處支那駐屯軍ノ所信ニ任ス。

不幸ニシテ内地ヨリ出兵ヲ要スルコトトナルモ極力平津地方ノ局地事件トシテ收拾シ度。

二 事態若シ惡化擴大スル場合ニハ十分ナル兵力ヲ派遣シ速ニ解決ヲ期ス。之ガ爲七月八日夕刻ニ於ケル參謀本部ノ派兵腹案左ノ如シ。

(一) 關東軍ヨリ

熱河旅團主力、機械化兵團主力、偵察及重爆飛行隊各二中隊、鐵道隊一大隊、自動車隊二中隊

(二) 朝鮮軍ヨリ

歩兵四大隊、野砲兵一大隊、騎兵、工兵各一中隊

(三) 内地ヨリ(主ナルモノ)

野戰重砲兵一旅團、山砲兵一聯隊、戰車隊二大隊、飛行隊各種合計十六中隊等

海軍中央部
ノ準備

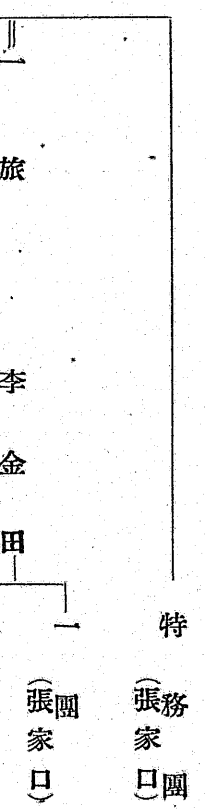
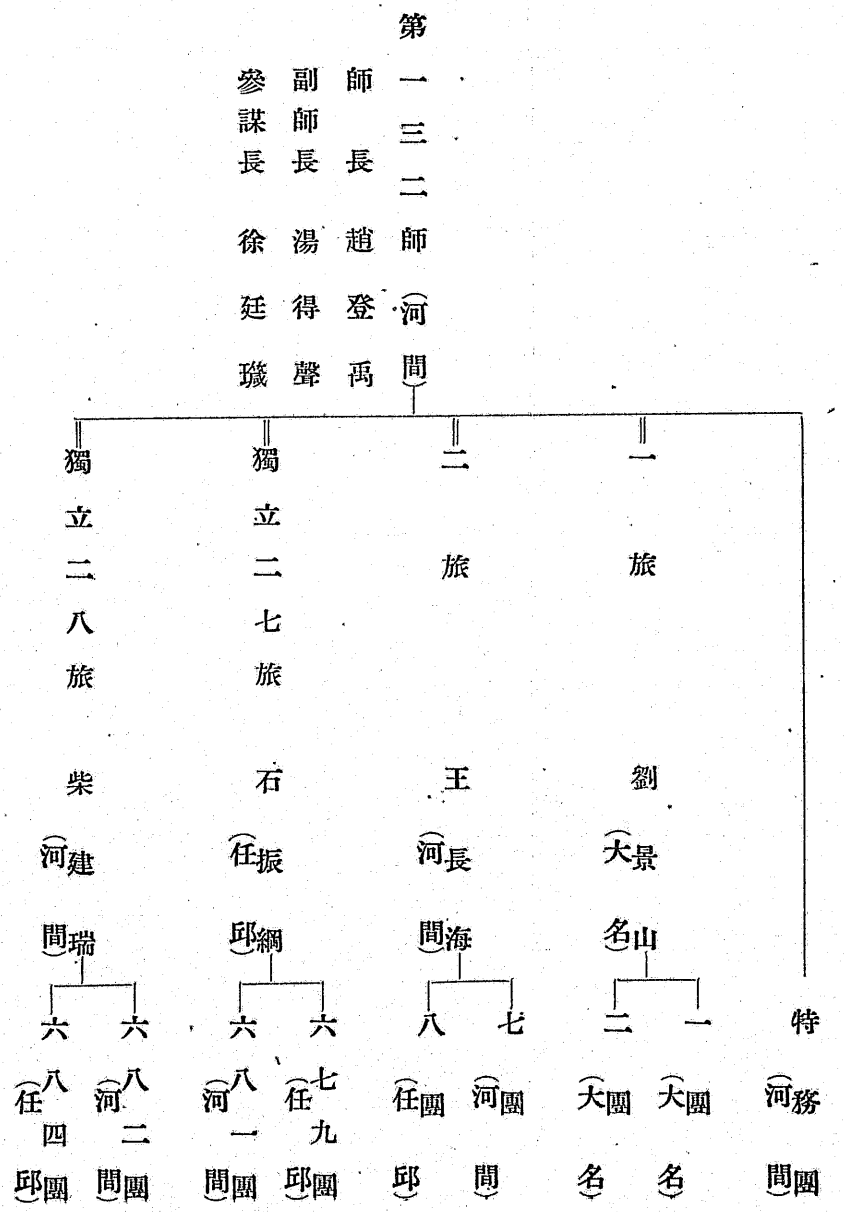
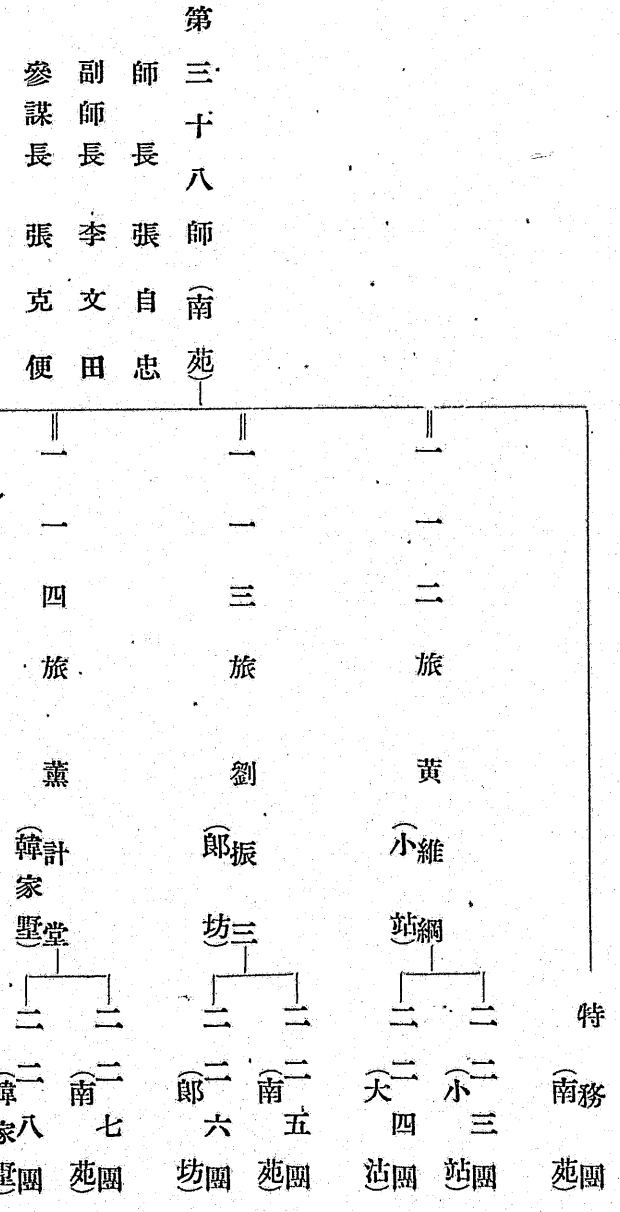
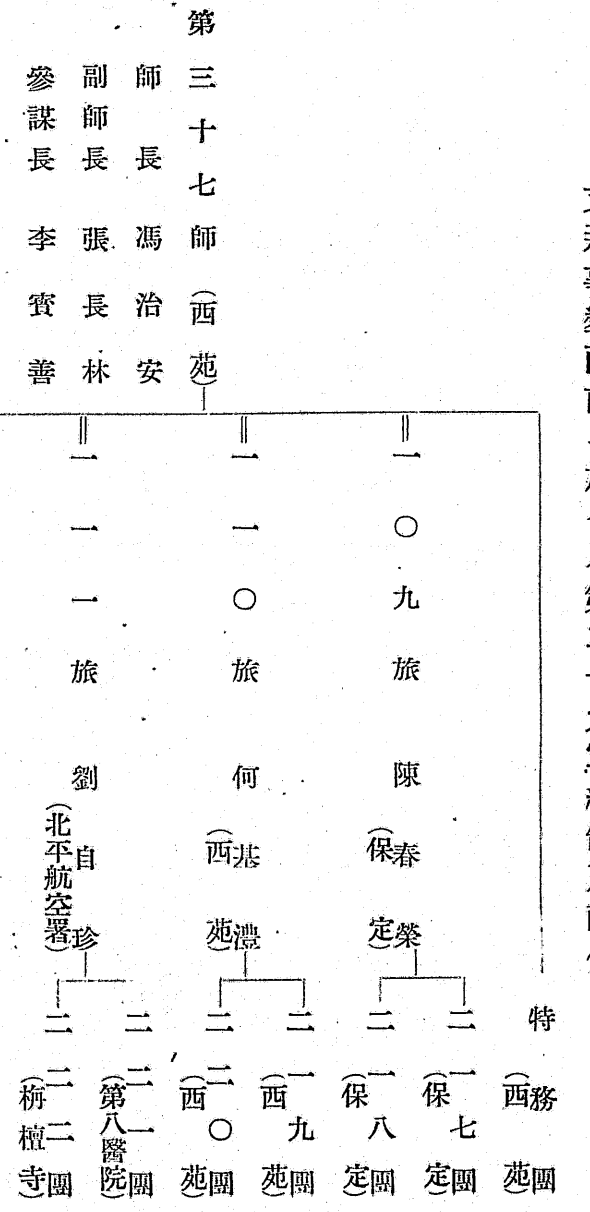
海軍中央部ニ於テハ當時ノ支那側ノ不穩ナル情勢及事件發生ニ對スル陸軍ノ態度ニ鑑ミ、事件擴大ノ場合ヲ考慮シ、軍令部方針ニ基キ左ノ如ク準備ニ著手セリ。

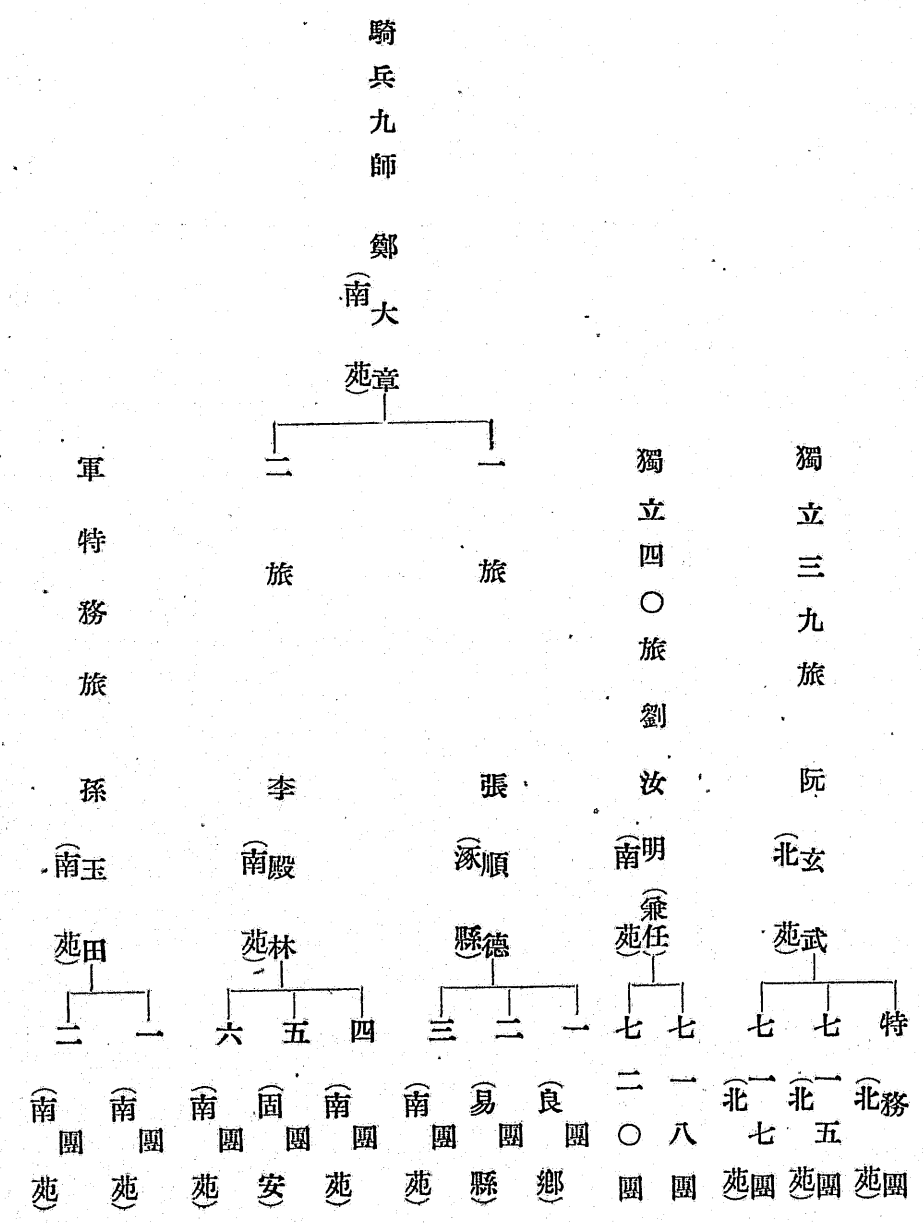
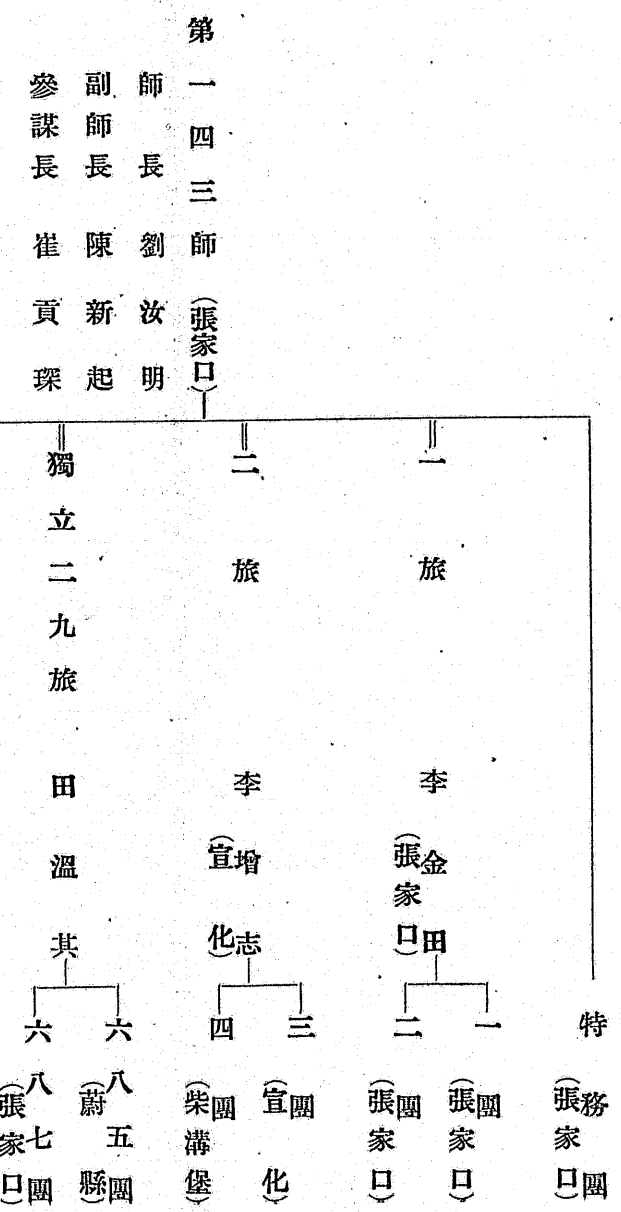
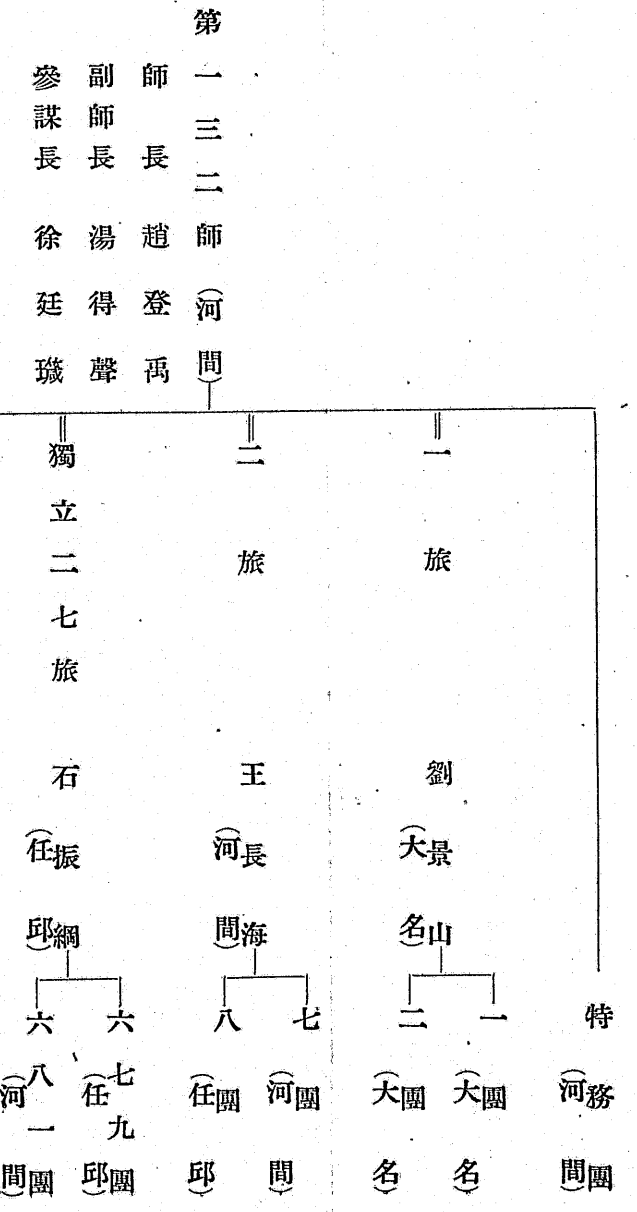
- 一 差當リ目下臺灣方面ニ於テ海陸協同演習中ノ第三艦隊ニ對シ、基本演習中止、原警備地ニ復歸方措置ス。
- 二 海軍ノ警備ハ本事件ノ全支波及ニ備フルヲ本旨トシ、差當リ青島方面ノ警備ニ重點ヲ置ク。
尙努メテ我ヨリ支那側ヲ刺戟スル如キ行動ヲ慎ム。
- 三 今後ノ事態ニ即應スル爲對支應急派兵待機兵力ヲ準備ス。

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="687 669 1161 898"><tr><td data-bbox="687 669 924 898">2</td><td data-bbox="924 669 1161 898">1</td></tr></table>	2	1
2	1		
分割撮影 した理由	A3版以上のため		
文書等名	附図第1 支那事変直前に於ける第29軍編制及配備		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

支那事變直前ニ於ケル第二十九軍編制及配備

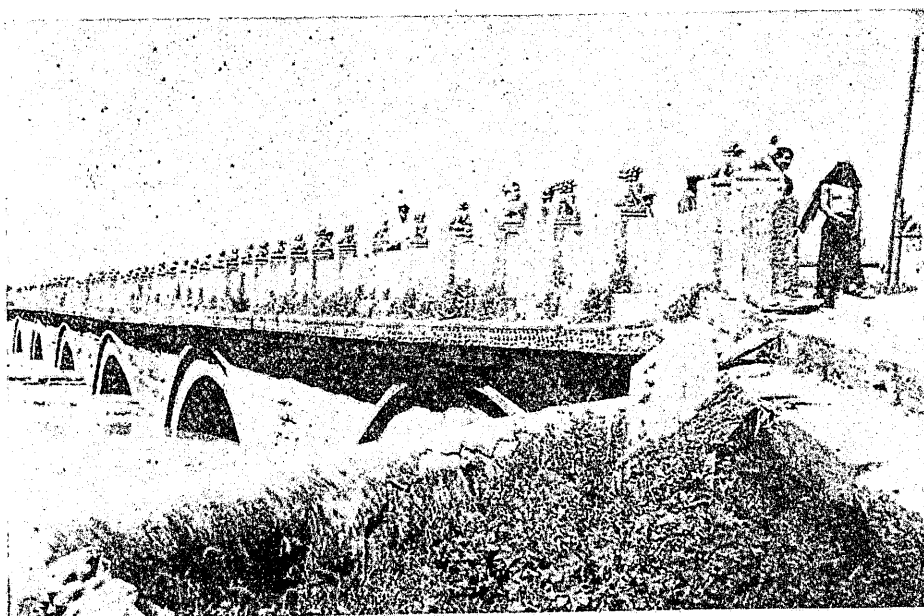






蘆溝橋附近

寫眞左上方ニ見ユルハ京漢線鐵橋、其ノ下方ハ永定河ニ懸レル蘆溝橋ナリ。即チ事變發端ノ地龍王廟ハ蘆溝橋北方千米ノ箇所ナルガ本寫眞ニハ見エズ。右岸ニ見ユル城壁ハ宛平縣城ナリ。



蘆溝橋

0987

事態小康ヲ
見出ス

第二項 陸軍ノ北支派兵決定

前述ノ如ク我方軍ノ嚴重ナル抗議ニ依リ支那軍ハ漸ク九日午後零時二十分ニ至リ永定河右岸ニ撤退セルヲ以テ、我方軍ハ監視ノ爲歩兵ノ小部隊ヲ殘留セシメ、主力ハ豐臺北平及通州ニ引揚ガ、事件ハ茲ニ小康ヲ得タル如ク看取セラレタリ。

然レドモ當時陸軍中央部ニ於テハ、假令交渉ヲ繼續スルモ當面支那軍ノ眞意明カナラズ、且七月七日以來屢我ニ對シ不法射撃ヲ敢テセシ不信不遜ノ態度竝ニ第二十九軍ノ兵力及其ノ抗日態度ニ鑑ミ、寧ロ此ノ際速ニ適當ナル兵力、即チ内地ヨリ三箇師團ノ現地派遣ヲ必要ト認メ、九日午前八時三十分ヨリ開催ノ閣議ニ之ヲ諮リタル處閣議ハ漸ク小康ヲ見タル現地ノ情況ニ鑑ミ、未ダ内地ヨリ出兵ノ時機ニ非ズト申合ハセタリ。

一 衙門口事件

然ルニ翌十日午後五時十五分頃、衙門口蘆溝橋北西北四軒、永定河左岸二七〇頁挿入圖參照附近ノ支那軍ハ、龍王廟ヲ占據セル我方監視部隊ニ對シ不法ニモ攻撃ヲ加ヘ來リ、我亦之ニ應戰、我が死傷十六名ヲ出スノ衝突ヲ惹起セリ。仍ツテ我方ハ機宜前線ニ増援スルト共ニ、支那側ニ對シ次ノ要求ヲ爲セリ。

一 七月十一日ヲ期シ附近支那軍ノ永定河右岸撤退

二 陳謝

三 處罰

四 抗日分子ノ徹底的取締

然ルニ支那側ハ之ニ應ゼザルノミナラズ、愈前線ニ兵力ヲ増加シ、一面國民政府ハ全國飛行部隊ニ出動ヲ命ジ、又河南附近ニ在ル部隊ニ北上ヲ命ズル等、武力的準備ヲ進ムル所アリテ事態漸ク重大ヲ告グルニ至レリ。

陸軍中央部
ノ強硬決意

抑梅津何應欽協定^{六九頁以下參照}ニ於テ、各種反日團體及中央軍ハ河北省ニ存在ヲ許サズ、又排日策動ヲ禁絶シアルニ拘ラズ、支那側ハ該協定ヲ蹂躪シテ憚ラズ、他面事件發生以來我が在支官憲及居留邦人ハ幾多ノ暴行侮辱ヲ受ケ、其ノ生命財產モ危殆ニ瀕セントス。陸軍中央部ハ此等ノ事態ニ鑑ミ、帝國トシテハ此ノ際彼ノ不法行爲ニ對シ、之ガ根絶ヲ期シ斷乎膺懲ノ師ヲ起スノ要アリト爲シ、陸軍省ハ十一日午前出兵承認ノ閣議ヲ要請セリ。

七月十一日

同日閣議ニ先ダチ午前十一時三十分頃、總理大臣公爵近衛文麿、外務大臣廣田弘毅陸

ノ五相會議
軍大臣陸軍大將杉山元海軍大臣海軍大將米内光政大藏大臣賀屋興宣ノ五大臣ハ總
理大臣官邸ニ會合シ北支派兵問題ニ關シテ陸軍大臣ノ提議ニ就キ審議シタル結果
左ノ諸項ニ就キ意見ノ一致ヲ見タリ。

一 派兵ノ目的ハ威力ノ顯示ニ依リ

(一) 支那軍ノ謝罪

(二) 將來ノ保障

ヲ爲サシムルニ在リ。

二 我方要求ニ應ゼザル時初メテ撃ツ。

三 飽迄不擴大現地解決主義ニ依ル。

四 動員後派兵ノ必要ナキニ至ラバ派兵ヲ取止ム。

五 派兵兵力ハ五箇師團但シ差當リ三箇師團トス。

斯クテ概ネ北支派兵ノ議ヲ決シテ午後二時五相會議終了シ更ニ一般閣議ニ移リ陸
軍大臣ハ關東軍ヨリ熱河旅團及機械化部隊朝鮮軍ヨリ第二十師團内地ヨリ第五第

六第十ノ三箇師團ヲ派兵スルノ件ヲ要請シ閣議之ヲ承認セリ。尙海軍大臣ハ(一)海軍トシテハ全面的作戰ニ備ヘ(二)陸軍及外務ト連絡ヲ密ニシ、不用ノ刺戟ヲ與フルコトナキ様、又時機ヲ失ハザル様致シ度キ旨ヲ述べ、一同之ヲ了承セリ。

北支派兵御裁可

近衛總理大臣ハ同日午後四時二十分葉山御用邸ニ伺候、北支派兵ニ關シ上奏御裁可ヲ仰ギタリ。參謀總長及陸軍大臣ハ總理大臣ニ引續キ上奏ノ上、差當リ關東軍ノ派兵ヲ下令シ、翌十二日第二十師團ノ應急動員ヲ下令セリ。而シテ内地師團ノ派兵ノ時機ハ爾後ノ情況ニ依リ決スルコトトセリ。

北支派兵ニ關シ帝國政府聲明ヲ發ス

七月十一日午後六時二十四分、政府ハ今次派兵ノ理由竝ニ政府ノ方針ニ關シ次ノ如ク聲明ヲ發表シ、且今次事變ヲ「北支事變」註ト稱スルコトニ決定セリ。

註 政府ハ上海作戰ノ開始ニ伴ヒ昭和十二年九月二日ノ閣議ニ於テ北支事變ノ稱呼ヲ廢シ爾後支那事變ト唱フルコトトナセリ。

右聲明内容

北支派兵ニ關スル帝國政府ノ聲明

相踵ク支那側ノ侮日行爲ニ對シ支那駐屯軍ハ隱忍靜觀中ノ處從來我ト提携シテ北支ノ治安ニ任シアリシ第二十九軍ノ七月七日夜半蘆溝橋附近ニ於ケル不

法射撃ニ端ヲ發シ該軍ト衝突ノ已ムナキニ至レリ爲ニ平津方面ノ情勢逼迫シ我在留民ハ正ニ危殆ニ瀕スルニ至リシモ我方ハ和平解決ノ望ヲ棄テス事件不擴大ノ方針ニ基キ局地的解決ニ努力シ一旦第二十九軍側ニ於テ和平的解決ヲ承諾シタルニ不拘突如七月十日夜ニ至リ彼ハ不法ニモ更ニ我ヲ攻撃シ再ヒ我軍ニ相當ノ死傷ヲ生スルニ至ラシメ而モ頻ニ第一線ノ兵力ヲ増加シ更ニ西苑ノ部隊ヲ南進セシメ中央軍ニ出動ヲ命スル等武力的準備ヲ進ムルト共ニ平和的交渉ニ應スルノ誠意ヲ遂ニ北平ニ於ケル交渉ヲ全面的ニ拒否スルニ至レリ以上ノ事實ニ鑑ミ今次事件ハ全ク支那側ノ計畫的武力抗日ナルコト最早疑ノ餘地ナシ。

思フニ北支治安ノ維持カ帝國及滿洲國ニトリ緊急ノ事タルハ茲ニ贅言ヲ要セサル處ニシテ支那側カ不法行爲ハ勿論排日侮日行爲ニ對スル謝罪ヲ爲シ及今後斯カル行爲ヲカラシムル爲ノ適當ナル保障等ヲナスコトハ東亞ノ平和維持上極メテ緊要ナリ。仍テ政府ハ本日ノ閣議ニ於テ重大決意ヲ爲シ北支派兵ニ關シ政府トシテ執ルヘキ所要ノ措置ヲナス事ニ決セリ。

然レトモ東亞平和ノ維持ハ帝國ノ常ニ顧念スル所ナルヲ以テ政府ハ今後共局面不擴大ノ爲平和的折衝ノ望ヲ捨テス支那側ノ速ナル反省ニヨリテ事態ノ圓滿ナル解決ヲ希望ス又列國權益ノ保全ニ就テハ固ヨリ十分之ヲ考慮セントスルモノナリ。

舉國一致事
變處理體制
ノ確立

政府ハ右聲明ニ依リ派兵ノ理由竝ニ政府ノ方針ヲ明示セルガ更ニ國內輿論ノ統一工作ニ努ムル所アリ。即チ十一日夜近衛總理大臣ハ總理大臣官邸ニ貴衆兩院議員代表、財界有力者及新聞通信關係者代表等ヲ招キ今次出兵ノ已ムヲ得ザル理由ヲ説明シ、又七月十五日地方長官ヲ召集、政府ノ方針ヲ示達シ、以テ舉國一致事變處理體制ノ確立ニ遺憾ナキヲ期シタリ。

天皇 皇后兩陛下ニ於カセラレテハ當分ノ間葉山御用邸ニ御駐輦ノ御豫定ナリシ處、時局ノ重大ナルヲ御軫念アラセラレ、十二日 兩陛下御同列ニテ宮城ニ還御アラセラレタリ。



昭和十二年七月十一日首相官邸=於ケル五相會議へ出席ノ閣僚
中央近衛首相、右上米内海相、左上杉山陸相、右下廣田外相、左下賀屋藏相

0994

第二節 海軍ノ措置

第一項 大綱ノ決定

第一目 事變處理方針ノ決定

海軍ノ事變
見通シ

事變發生以來海軍中央當局ハ陸軍ト特ニ緊密ナル連繫ヲ保持シツツ逐次處置スル所アリシガ、七月十一日朝迄ノ情況ニ於テ陸軍派兵ノ已ムヲ得ザルニ立至レルニ鑑ミ、海軍トシテハ陸軍ガ差當リ北支以外ニハ何等考慮シ居ラザルガ如キ觀アルニ拘ラズ、今次事件ハ全支ニ波及スル公算大ナルモノトシテ之ニ對シ諸準備アルベキコト、而シテ全面作戰トモ爲ラバ中南支居留民ノ引揚ヲ要スルコト、並ニ上海青島ノ現地保護ハ陸軍ノ派兵ヲ要スルニ至ルベキコト等ヲ考慮シ、更ニ同日海軍省軍令部協議ノ結果、軍令部ハ次ノ如ク用兵方針ヲ定メタリ。

軍令部ノ用
兵方針

一 卽應準備

今次事件ノ處理方針トシテハ極力事態ノ擴大ヲ避ケ、平津地方ノ局地的事件トシテ速ニ解決ヲ圖ルベキハ勿論ナルモ、一局地ニ事件發生セバ其ガ全支ニ波及

スルヲ常トスル支那ノ常態ニ鑑ミ、海軍トシテハ支那各地ヘノ波及ニ備ヘツツ我ガ權益及在留邦人ノ保護ニ任ズルヲ以テ本旨ト爲シ、第三艦隊及旅順馬公兩要港部艦船ハ主要各地ニ分泊警備ニ當リ居レルガ、今後事態ノ惡化ニ即應センガ爲次ノ如ク諸準備ヲ進ム。

(一) 鎮守府特別陸戰隊ヲ横須賀佐世保ニ各一箇大隊、吳ニ二箇大隊ヲ編成ス。

(二) 各種艦上飛行機三十六機ヲ以テセル第十二航空隊、同三十機ヲ以テセル第十三航空隊ヲ以テ第二聯合航空隊ヲ、水上偵察機各六機ヲ以テ第二十一航空隊及第二十二航空隊、又木更津航空隊ニ中型攻撃機六機ヲ加ヘ同隊ト鹿屋航空隊ヲ以テ第一聯合航空隊ヲ特設編成ス。

(三) 主トシテ右特設部隊輸送ノ目的ヲ以テ木曾多摩嚴島及長鯨ヲ十二時間待機トシ、第八戰隊第一水雷戰隊、北上第十驅逐隊、第十一驅逐隊、第二十三驅逐隊及佐多、知床、野島ヲ二十四時間待機トス。

二 用兵要領

内地陸軍部隊ノ發進ト並行シ、前項ノ海軍部隊ハ情況ニ應ジ夫々所要ノ方面ニ進出スルコトトシ、之ニ關スル用兵要領ヲ概ネ次ノ如ク定ム。

(一) 陸軍ト直接協力スベキ兵力

天津方面ニ旅順要港部兵力ノ一部ヲ派遣シ、以テ陸軍ト協同セシメ、又内地師團ノ派遣ニ際シテハ聯合航空兵力及其ノ他航空兵力ノ一部等ヲ以テ之ガ輸送ヲ掩護セシムルコトトス。

(二) 青島方面ニ於ケル事態悪化ニ備フル兵力

第二聯合航空隊ヲ周水子(大連附近)ニ前進待機セシメ、又横須賀鎮守府第一特別陸戰隊及吳鎮守府第一特別陸戰隊ヲ夫々待機中ノ艦船ニ乗艦セシメ、青島方面ニ進出待機セシメントス。

(三) 中南支方面ニ於ケル事態悪化ニ備フル兵力

第一聯合航空隊ヲ鹿屋方面ニ待機セシメ、情況ニ依リ臺灣及濟州島方面ニ進出待機セシメ、又吳鎮守府第二特別陸戰隊及佐世保鎮守府第一特別陸戰隊ヲ佐世保ニ待機セシメ、情況ニ依リ上海方面ニ増派シ得ルコトトス。

以上ノ部隊聯合艦隊ノモノヲ除クハ現地著後第三艦隊司令長官ノ指揮ヲ受ケシメラレ萬一ニ備フルモノナルガ、今後ノ情勢上必要ニ應ジ聯合艦隊ノ一部ヲ待機セシム。尙作戰擴大スル場合北支方面ハ第二艦隊司令長官、爾餘ノ方面ハ

第三篇 支那事變ノ發端

第三艦隊司令長官ヲシテ指揮セシム。

二八一

0998

第二目 海軍兵力發動準備發令

軍令部總長元帥海軍大將伏見宮博恭王殿下ニハ七月十一日午後五時十五分葉山御用邸ニ於テ北支事變ニ伴フ用兵事項ヲ御奏上遊バサレ、右ニ關スル諸準備ノ御允裁ヲ了セラレタリ。

同日海軍中央部ハ左記ヲ發令セリ。

七月十一日午前九時五十分發電 發 軍務局長軍令部第一部長

宛 各艦隊各鎮守府各要港部駐滿海軍部各參謀長通報 第十戰隊第五水雷戰隊

各司令官在支大使館附武官支那各地駐在武官

④ 軍令部機密第二四二番電

北支現下ノ情勢ニ對スル處置ハ未ダ發令ノ時機ニ達セザルモ、之ガ處理ハ極力事件不擴大主義ヲ以テ可及的事態ヲ平津地方ニ局限スル方針ナル處、海軍トシテハ警備上所要ノ準備ヲ爲スコト勿論ナリト雖モ、警備各地ニ於テハ此ノ際特ニ行動ヲ慎重ニシ、支那側ニ無用ノ刺戟ヲ與フルガ如キコトナキ様留意セラレ度。

七月十一日午後六時三十分發電 發 軍務局長

宛 各鎮守府各要港部各艦隊各參謀長、練習艦隊司令官、機關學校長(通報 駐滿海軍部參謀長)

軍務機密第三五九番電

北支事件ノ推移ニ應ジ左ノ通役務ヲ變更セラルル豫定。

一 第二艦隊ニ第四水雷戰隊(木曾)第六驅逐隊第十驅逐隊第十一驅逐隊ヲ加フ。

二 第二艦隊第四戰隊ニ鳥海ヲ加フ。

三 第三艦隊ニ第九戰隊(妙高・多摩)及第三水雷戰隊(北上)第二十三驅逐隊第一水雷隊第二十一水雷隊ヲ加フ。

四 第三艦隊第五水雷戰隊ニ第二十九驅逐隊ヲ加フ。

五 第三艦隊ニ第一掃海隊第十一掃海隊ヲ附屬セシム。

七月十一日午後四時二十分發電 發 軍令部次長海軍次官

宛 各鎮守府司令長官(通報) 各艦隊司令長官各要港部駐滿海軍部各司令官
軍令部機密第二四九番電

特設部隊ニ關シ左ノ通豫定セララル。註一

- 一 佐伯航空隊艦上戦闘機一隊(常用十二)九四式艦上爆撃機一隊(常用十二)九二式艦上攻撃機一隊(常用十二)ヲ以テ第十二航空隊ヲ輸送機一及大村航空隊艦上戦闘機一隊(常用十二)九六式艦上爆撃機一隊(常用十八)ヲ以テ第十三航空隊ヲ、吳航空隊九五式水上偵察機半隊(常用六)ヲ以テ第二十一航空隊ヲ、佐世保航空隊九五式水上偵察機半隊(常用六)ヲ以テ第二十二航空隊ヲ特設編成ス。

二 木更津航空隊(館山航空隊中型攻撃機ヲ加フ)及鹿屋航空隊ヲ以テ第一聯合航空隊ヲ特設編成ス。

三 第十二航空隊及第十三航空隊ヲ以テ第二聯合航空隊ヲ特設編成ス。

四 横須賀鎮守府第一特別陸戰隊、吳鎮守府第一註二、第二特別陸戰隊及佐世保鎮守府第一特別陸戰隊ヲ特設編成ス。

註一 本電ニ依ル編成ハ同日午後九時發令セラレタリ。

註二 橫須賀鎮守府第一特別陸戰隊吳鎮守府第一特別陸戰隊ニハ内令規定ノ外小砲四門及曲射砲四門ヨリ成ル砲隊ヲ加ヘタリ。

七月十一日午後七時四十分發電 發 海軍次官軍令部次長

宛 各艦隊各鎮守府各司令長官各要港部駐滿海軍部各司令官

軍令部機密第二五三番電

北支方面ノ情勢ハ屢次電報ノ通ナル處本日ノ閣議ニ於テ取敢ズ内地ノ三箇師團關東軍及朝鮮軍ノ一部ヲ北支ニ派兵スルコト竝ニ本事件ハ極力平津地方ニ局限シ事態ノ擴大ヲ避ケ速ニ解決スルノ方針ヲ決定セラレタリ。
海軍ハ本事件ノ支那各地波及ニ備フルト共ニ一部ヲ以テ陸軍ノ輸送掩護ニ任ズル爲諸般ノ準備ヲ進メラル。

七月十一日午後八時三十五分發電 發 軍令部次長

宛 聯合艦隊各鎮守府各司令長官舞鶴要港部司令官

軍令部機密第二五六番電

一 木曾嚴島多摩長鯨ヲ十二時間待機第八戰隊第一水雷戰隊北上第十驅逐隊
第十一驅逐隊第二十三驅逐隊佐多知床野島ヲ二十四時間待機ト爲ス様取計
ヲハレ度。待機地點各所屬軍港第八戰隊第一水雷戰隊知床ハ佐世保多摩ハ
吳野島ハ横須賀

二 木曾嚴島ハ横須賀鎮守府第一特別陸戰隊多摩長鯨ハ吳鎮守府第一特別陸
戰隊(以上青島方面派遣ノ豫定)第八戰隊第一水雷戰隊ハ吳鎮守府第二特別陸
戰隊佐世保鎮守府第一特別陸戰隊(以上上海方面派遣ノ豫定)北上第十驅逐隊
佐多野島ハ第一聯合航空隊基地員物件等第十一驅逐隊第二十三驅逐隊知床
ハ第二聯合航空隊基地員物件等ノ各輸送ニ充テラルル豫定。

追テ第一聯合航空隊中鹿屋航空隊所屬機ハ臺北ニ木更津航空隊所屬機ハ大
村(情況ニ依リ濟州島)ニ又第二聯合航空隊ハ周水子ニ進出セシメラルル豫定。

七月十一日午後九時三十五分發電 發 軍令部次長

宛 各鎮守府司令長官

軍令部機密第二五七番電

横須賀鎮守府第一特別陸戰隊吳鎮守府第一特別陸戰隊及第二聯合航空隊ヲ十二時間待機、吳鎮守府第二特別陸戰隊佐世保鎮守府第一特別陸戰隊第一聯合航空隊及第二十一、第二十二航空隊ヲ二十四時間待機ト爲ス様取計ラハレ度。
待機地點、吳鎮守府第二特別陸戰隊ハ佐世保其ノ他ノ特別陸戰隊ハ各所屬軍港、木更津海軍航空隊、鹿屋海軍航空隊ハ各原隊特設航空隊ハ各設置地點。

2215
七月十一日午後十時十五分發電 發 軍令部次長

宛 佐世保鎮守府司令長官

軍令部機密第二五八番電

第一、第二聯合航空隊所要ノ基地人員及物件ハ準備出來次策軍令部機密第二五六番電ニ依ル輸送艦船ヲ以テ第一聯合航空隊中鹿屋航空隊所屬機ニ對スルモノハ臺北方面ニ、木更津航空隊所屬機ニ對スルモノハ半數ハ大村方面、半數ハ濟州島方面ニ、第二聯合航空隊所屬機ニ對スルモノハ周水子方面ニ向ケ發進シ待機セシメラレ度。

北支作戰ニ
關スル海陸
軍協定

北支方面ニ於ケル海陸軍協同作戰ニ關シ七月十一日軍令部參謀本部間ニ於テ立案
協定セル『北支作戰ニ關スル海陸軍協定』及『北支作戰ニ關スル海陸軍航空協定』次ノ如
シ。

第二項 對支作戰計畫ノ立案

第一目 北支作戰ニ關スル海陸軍間ノ協定

北支作戰ニ關スル海陸軍協定

軍令部
參謀本部

一、作戰指導方針

- 一 努メテ作戰地域ヲ平津地方ニ限定シ中南支ニハ主義トシテ實力ヲ行使
セズ但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ青島上海附近ニ於テ居留民ヲ保護ス
 - 二 海陸軍協同作戰トス
 - 三 本作戰實行中第三國ト事ヲ構フルコトハ極力之ヲ避ク
- ### 二、作戰任務ノ分擔
- 一 時局局限ノ方針ニ則リ平津地方確保ノ爲關東軍及内地ヨリ所要ノ兵力
ヲ平津地方ニ派遣シ支那駐屯軍ヲ強化ス右作戰ハ主トシテ陸軍之ニ當リ

海軍ハ陸軍輸送護衛竝ニ天津方面ニ於テ陸軍作戰ニ協力ス

二 中南支方面ニ對シテハ海軍主トシテ警戒ニ任ズ

三 前項方面ノ情況惡化シ帝國居留民ノ保護ヲ要スル場合ニ於テハ青島及

上海附近ニ限定シ海陸軍所要兵力協同シテ之ニ當ル

四 航空

別ニ定ム

三、兵力區分輸送及護衛

一 兵力區分

(一) 陸軍ハ左ノ如ク兵力ヲ派遣ス

(イ) 北支方面

關東軍ヨリ混成約二旅團其ノ他所要ノ部隊

朝鮮ヨリ應急動員一師團及内地ヨリ動員三師團其ノ他所要ノ部隊

(ロ) 青島及上海方面

内地ヨリ動員二師團其ノ他所要ノ部隊ヲ配當スルモ其ノ兵力區分ハ

北支方面等ノ情況ニ依リ決定ス

(二) 海軍ハ左ノ兵力ヲ増派ス

(イ) 北支方面

第五戰隊、第四水雷戰隊、木曾、多摩、嚴島、長鯨、第十一驅逐隊、第二十三驅逐隊、知床、第二聯合航空隊特別陸戰隊二大隊

(ロ) 中支及南支方面

第八戰隊、第一水雷戰隊、第一聯合航空隊特別陸戰隊二大隊

輸送及護衛

(一) 北支方面ニ對スル輸送ハ主力ハ鐵道ニ依リ(釜山經由)一部ハ海路ニ依ル(秦皇島上陸)

(二) 青島、上海方面ヘノ輸送ハ海路ニ依ル

但シ情況ニ依リ一部ノ急派ヲ考慮ス

輸送區分ハ情況ニ依リ定ム

(三) 海上護衛ハ第四戰隊、第二水雷戰隊、第二航空戰隊、第二聯合航空隊及第三艦隊ノ一部ヲ以テ之ニ充テ間接護衛トシ要スレバ直接護衛トス

四、通信連絡

外征陸軍ノ中央部トノ通信連絡ハ必要ニ應ジ海軍ニ於テ援助ス

五、使用時

中央標準時トス

六、協同作戰要圖略省

七、暗號書略省

北支作戰ニ關スル海陸軍航空協定

北支作戰ニ
關スル海陸
軍航空協定

一 北支方面ニ於ケル敵航空勢力ノ覆滅ハ主トシテ陸軍之ニ任ジ左ノ如キ場合
海軍之ニ協力ス

(一) 海軍ガ北支以外ノ方面ニ於ケル航空作戰ノ考慮ナキ時ニシテ陸軍方面緊
要トスル時

(二) 右以外ノ場合ト雖モ陸軍方面緊要ニシテ至近海軍航空兵力ニ協力ノ餘裕
アル時

二 中支南支方面ニ於ケル敵航空勢力ノ覆滅ハ主トシテ海軍之ニ任ジ陸軍ハ自
衛ノ爲ニスル航空作戰ニ任ズ

三 陸軍輸送船隊ノ海上護衛竝ニ上陸地到着前後海軍機ハ所要ニ應ジ空陸ノ敵ニ對シ之ヲ掩護ス

四 陸軍部隊ノ上陸時及陸軍飛行準備完了ニ至ル迄ノ間ニ於ケル陸軍ノ爲ノ空中勤務ハ之ヲ要スル場合海軍航空兵力ヲ以テス

五 同一方面ニ在ル海陸軍機ノ任務ノ分擔協同ノ要領等ノ細項ハ出征部隊相互ニ於テ直接協定ス

六 使用兵力

(一) 陸軍

(イ) 平津方面

航空兵團司令部

第一飛行團司令部

偵察八中隊(六六)

戰闘七中隊(七四)

輕爆四中隊(三六)

重爆五中隊(二四)

第一章 蘆溝橋事件

(ロ) 青島及上海方面

偵察二中隊(一八)

戦闘二中隊(二四)

(二) 海軍

(イ) 北支方面

第二聯合航空隊(戰二四、爆三〇、攻一二)

第二十一航空隊(水偵六)

作戰ノ推移ニ依リ第二聯合航空隊ハ中支(上海)方面ニ轉戦シ又情況ニ依リ

第二艦隊搭載機(水偵)ノ一部ヲ以テ一部隊ヲ編組増勢ス

(ロ) 中南支方面

第一航空戰隊(戰二一、爆一二、攻九)

第二航空戰隊(戰一二、爆一二、攻一八)

第一聯合航空隊(陸攻三八、戰一二)

第二十二航空隊(水偵六)

第十二戰隊(水偵九)

七 飛行場ノ使用區分竝ニ其ノ整備
第一聯合航空隊ノ一部(濟州島配備ノモノ)ハ上海方面基地ニ進出ス又情況
ニ依リ第一、第二航空戰隊ノ飛行機モ上海方面基地ニ揚陸ス

(一) 北支(關東州)方面

海軍

作戰初頭第二聯合航空隊ハ周水子飛行場ヲ使用ス爾後情況ニ依リ一部ハ青
島滄口飛行場ヲ陸軍ト共用ス

滄口飛行場ノ整備ハ海軍之ヲ擔任ス

陸軍

北支方面ニ於テハ陸軍ハ山海關綏中及天津方面ノ飛行場ヲ使用ス但シ重爆
隊ハ周水子ヲ使用スルコトアリ

山東方面ニ於テハ陸軍ハ當初ハ滄口飛行場ヲ海軍ト共用シ爾後西方地區ニ
飛行場ヲ整備シ之ニ進出ス

周水子飛行場ノ整備ハ陸軍之ヲ擔任ス

(二) 中支方面

(イ) 作戰初頭

公大ハ海陸軍之ヲ共用シ新公園ハ海軍之ヲ専用ス東溝灘飛行場完成セバ
公大ノ海軍飛行機ハ東溝灘ニ移ル

公大新公園及東溝灘飛行場ノ整備ハ海軍之ヲ擔任ス

(ロ) 爾後

陸軍飛行隊専用飛行場(江灣方面ト豫定ス)完成セバ陸軍飛行機ノ主力ハ之
ニ移ル

江灣方面ニ於ケル飛行場ノ整備ハ海陸軍協同シテ行フ

海軍ハ尙大康飛行場ヲ整備使用ス

情況許ス限り海陸軍ハ速ニ龍華飛行場ヲ占領共用ス

八 燃料爆彈等ノ補給

海陸軍獨自ニ補給ス

海軍航空部隊ノ空輸ニ際シ新義州平壤京城及大邱ニ於テ中繼補給ヲ要スル場
合ノ補給ハ陸軍之ヲ援助ス但シ平壤以外ニ於テ多數機ノ補給ヲ要スル場合ノ
燃料ハ海軍ニテ準備ス

陸軍航空部隊空輸ノ際濟州島ニ於テ中繼補給ヲ要スル場合ノ補給ハ海軍之ヲ
援助ス

此ノ場合ノ燃料ハ爲シ得レバ陸軍ニテ準備ス

九 通 信

味方識別信號
略省

第二目 作戰計畫内案ノ策定及内示

七月十二日軍令部ニ於テハ對支作戰計畫内案ヲ次ノ如ク策定セリ。

對支作戰用
兵ニ關スル
内示事項

對支作戰用兵ニ關スル内示事項差當リ統帥部腹案

トシテ内示セラルベキモノ

一 作戰指導方針

(一) 自衛權ノ發動ヲ名分トシ宣戰布告ハ行ハズ但シ彼ヨリ宣戰スル場合又ハ戰勢ノ推移ニ依リテハ宣戰ヲ布告シ正規戰トナス

(二) 支那第二十九軍ノ膺懲ヲ目的トシ爲シ得ル限り戰局ヲ平津地域ニ局限シ情況ニ依リ局地戰航空戰封鎖戰ヲ以テ居留民保護及支那膺懲ノ目的ヲ至短期間ニ達成スルヲ本旨トス

(三) 海陸軍協同作戰トス

二 用兵方針

(一) 時局局限ノ方針ニ則リ差當リ平津地域ニ陸軍兵力ヲ進出迅速ニ第二十九軍膺懲ノ目的ヲ達ス

海軍ハ陸軍輸送護衛竝ニ天津方面ニ於テ陸軍ト協力スル外對支全力作戰ニ備フ(第一段作戰)

(二) 戦局擴大ノ場合概ネ左記方針ニ依リ作戰ス(第二段作戰)

(イ) 上海及青島ハ之ヲ確保シ作戰基地タラシムルト共ニ居留民ヲ現地保護ス

爾他ノ居留民ハ之ヲ引揚ゲシム

(ロ) 中支作戰ハ上海確保ニ必要ナル海陸軍ヲ派兵シ且主下シテ海軍航空兵力ヲ以テ中支方面ノ敵航空勢力ヲ掃蕩ス

(ハ) 北支作戰ハ青島ハ海陸軍協同シテ之ヲ確保シ爾他ノ地域ハ陸軍之ヲ制壓ス

(ニ) 陸軍出兵ハ平津方面ニ對スル關東軍朝鮮軍ヨリ應接スルモノ竝ニ内地ヨリ出兵スル三箇師團ノ外上海及青島方面ニ二箇師團ノ豫定ニシテ其ノ配分ハ情況ニ依ル

但シ海軍トシテハ之ヲ三箇師團必要ト認メ陸軍側ニ申入レ申

(ホ) 封鎖戰ハ揚子江下流及浙江沿岸其ノ他我兵力所在地附近ニ於テ局地的

平時封鎖ヲ行ヒ支那船舶ヲ對象トシ第三國トノ紛争ヲ醸サザルヲ旨トス但シ戰勢ノ推移如何ニ依リテハ地域的ニモ内容的ニモ之ヲ擴大ス

(ヘ) 支那海軍ニ對シテハ一應嚴正中立ノ態度及現在地不動ヲ警告シ違背セバ猶豫ナク之ヲ攻撃ス

(ト) 當初第三艦隊ハ全支作戰ニ第二艦隊ハ專ラ陸軍ノ輸送護衛ニ任ズ

青島方面ニ出兵スルニ至ラバ北支作戰ハ第二艦隊之ニ當リ中南支作戰ハ第三艦隊之ニ任ズ

作戰境界ヲ海州灣隴海線ノ線(北支作戰ニ含ム)トス

(チ) 南支作戰ハ充分有力ナル指揮官竝ニ部隊ヲ以テ之ニ充テ第三艦隊司令
部ハ中支作戰ニ專念シ得ル如ク編制ヲ豫定ス

(リ) 馬鞍群島ニハ水上機基地、艦船燃料補給等ノ爲前進根據地ヲ必要トシ之
ガ所要兵力ヲ第三艦隊ニ編入セラルル如ク編制ヲ豫定ス

(ヌ) 輸送護衛ハ第二艦隊之ニ任ジ青島方面出兵後上海方面ニ出兵ノ場合其
ノ輸送護衛ハ第三艦隊主トシテ之ニ當リ第二艦隊之ニ協力ス

(ル) 上海陸戰隊ハ現在派遣ノモノノ外更ニ二箇大隊ヲ増派シ青島ニハ特別

陸戦隊二箇大隊ヲ派遣ス何レモ其レ以上ニ陸戦隊ヲ必要トスル場合ハ一時艦船ヨリ揚陸セシム

(ヲ) 作戦行動開始ハ空襲部隊ノ概ネ一齊ナル急襲ヲ以テス

第一(第二)航空戦隊ヲ以テ杭州ヲ第一聯合航空隊ヲ以テ南昌南京ヲ空襲ス爾餘ノ部隊ハ右空襲ト共ニ機ヲ失セズ作戦配備ヲ完了ス

第二聯合航空隊ハ當初北支方面ニ使用ス

空中攻撃ハ敵航空勢力ノ覆滅ヲ目途トス

(ワ) 右空襲ニ先チ揚子江上流竝ニ廣東警備艦船ハ所要ノ地點ニ引揚ゲアルヲ要ス

(三) 上海及青島方面ニ派遣セラルル陸軍トノ作戦協定ハ未済ナルモ當部協定案ノ大要左ノ如シ

(イ) 上海及青島方面派兵ヲ必要トスル場合トナラバ上海方面ハ混成一箇旅團青島方面ハ一箇聯隊程度ノ先遣部隊ヲ急派ス

(ロ) 海軍艦船ヲ以テ爲シ得ル限り陸兵輸送ヲ援助ス
作戦部隊編制(内案別表第一ノ通

天龍龍田六第二艦隊司令長官北支作戰指揮ノ場合ハ其ノ指揮下ニ入ラシメラ
ルル豫定

四 作戰部隊軍隊區分(參考案別表第二ノ通)

別表第一

作戰部隊編制(內案)

作戰部隊編制(內案)

聯						區
第一艦隊						
第一	第二	第三	第四	第五	第六	艦
第一戰隊	第三戰隊	第八戰隊	第一水雷戰隊	第一潛水戰隊	第二航空戰隊	
霧島・榛名	鬼怒・名取・由良	川内 <small>第九驅逐隊(有明・夕暮・白露・時雨) 第二驅逐隊(村雨・夕立・五月雨) 第二十一驅逐隊(初春・子日・初霜・若葉)</small>	五十鈴 <small>第七潛水隊(伊一・伊二・伊三) 第八潛水隊(伊四・伊五・伊六)</small>	鳳翔・龍驤 <small>第三十驅逐隊(睦月・如月・彌生・卯月)</small>		特設艦隊
佐 世 保						地合集
合 聯						長所
(司令官) 第一艦隊司令官						官屬
第一艦隊司令官	第三戰隊司令官	第八戰隊司令官	第一水雷戰隊司令官	第一潛水戰隊司令官	第二航空戰隊司令官	司令官

合		艦		艦	
第		二		第	
第四戰隊	高雄・摩耶・鳥海	第二潜水戰隊	迅鯨	第二航空戰隊	加賀
第五戰隊	足柄・那智・羽黒	第四水雷戰隊	木曾	第二聯合航空隊	
第二水雷戰隊	神通 第七驅逐隊(曙・隴・潮) 第八驅逐隊(天霧・朝霧・夕霧) 第十九驅逐隊(磯波・浦波・敷波・綾波)	第二潜水戰隊	伊六八・伊六九・伊七一・伊六二 伊六四・伊六六 伊六五・伊六六	第二水雷戰隊	神通
第十驅逐隊(狹霧・漣・曉)		第十一驅逐隊(吹雪・白雪・初雪)		第十二驅逐隊(皐月・水無月・文月・長月)	
第六驅逐隊(雷・電・響)					
第十二航空隊					
第十三航空隊					
艦戰(艦爆十八)					
世	佐	又	吳		
長	令	司	隊	艦	
令	司	隊	艦	二	第
第二聯合航空隊司令官	第二航空戰隊司令官	第二潜水戰隊司令官	第四水雷戰隊司令官	第二水雷戰隊司令官	第五戰隊司令官
					第二艦隊司令官直率

1234=5678
2F=345678

艦							隊	
第							附	隊
第一聯合航空隊	第十二戰隊	第五水雷戰隊	第三水雷戰隊	第十一戰隊	第九戰隊	第十戰隊	屬	附屬
	沖島・神威 第二十八驅逐隊(朝風・夕風)	夕張 第十三驅逐隊(若竹・吳竹・早苗) 第十六驅逐隊(朝顔・芙蓉・刈萱) 第二十九驅逐隊(追風・疾風)	北上 第一水雷隊(鴻・隼・鶴・鵠) 第二十一水雷隊(初雁・友鶴)	八重山・安宅・栗・蓮・梅・鳥羽・勢多・ 堅田・比良・保津・熱海・二見(小鷹)	妙高・多摩	出雲・天龍・龍田	大井・巖島 第二十四驅逐隊(江風・山風・海風・涼風)	長鯨・襟裳・鳴戸 (水上機母艦任務) 特別陸戰隊二大隊 (吳第一・横須賀第二)
鹿屋航空隊 航空更隊 津隊							特運二	第二十一 航空隊 (水偵六)
第三艦隊司令官定							保	
第三艦隊司令官							官	
第三艦隊司令官							官長	
第一聯合航空隊司令官	第十二戰隊司令官	第五水雷戰隊司令官	第三水雷戰隊司令官	第十一戰隊司令官	第九戰隊司令官	第十戰隊司令官		

第三篇 支那事變ノ發端

三〇四

作戰部隊軍
隊區分(參
考案)

事 記	隊
	附 屬
第八戰隊・第一水雷戰隊・第一潜水戰隊及第一航空戰隊ハ情況ニ依リ第三艦隊ニ編入セララルルモノトス	上海特別陸戰隊 特別陸戰隊二大隊(吳第二・佐世保第一) 嵯峨 第一掃海隊(掃一・掃二・掃三・掃四・掃五・掃六) 第十一掃海隊(掃一三・掃一四・掃一五) 佐多・隱戸・鶴見(水上機母艦任務)
	第二十二 航空隊 (水偵六) 特運二
	ル 依 ニ 所
	官 長

別表第二

作戰部隊軍隊區分(參考案)(附任務)

北	隊部力主	區分	艦 船 部 隊	一 般 任 務	任 務 ノ 細 項	指 揮 官
隊・第四水雷戰隊・ 小隊・第二水雷戰 隊・第十戰隊第二 第四戰隊・第五戰	第一戰隊・第三戰 隊・第二十四驅逐 隊・大井	一般作戰支援	一 般 任 務	佐世保附近ニ在リテ警戒並ニ訓練	聯合艦隊司令長官	
(イ) 青島ノ確保 居留民保護 滄口飛行場 ノ占領整備	一 (木曾)・(多摩)・長鯨・嚴島ハ横鎮第一 特陸・吳鎮第一特陸ヲ輸送シ第十戰隊第一 二小隊及之等ト共ニ (イ) 居留民ヲ保護ス					

第一章 蘆溝橋事件

支 中	支 部 隊
<p>第十戰隊第一小隊・第十一戰隊・第八戰隊・第一水雷戰隊・第三水雷戰隊・佐多・特運二・上海特陸・吳鎮第二特陸・佐鎮第一特陸</p>	<p>第二潜水戰隊・第二航空戰隊・長鯨・嚴島・第二十二航空隊・鳴戸・特運二・襟裳・横鎖第一特陸・吳鎮第一特陸</p>
<p>一 上海ノ確保 (イ) 居留民ノ保護 (ロ) 前進航空基地ノ整備 二 要地ノ確保占領 三 敵船舶ノ抑留 四 敵艦船ノ監視</p>	<p>(ハ) 要地ノ占領 二 外征陸軍ノ輸送及輸送護衛 三 敵艦船ノ監視處分 四 敵船舶ノ抑留 五 附近敵航空兵力ノ覆滅</p>
<p>一 第八戰隊・第一水雷戰隊ハ吳鎮第二特陸・佐鎮第一特陸ヲ輸送シ之等及第十戰隊第一小隊・第十一戰隊・第三水雷戰隊・上海特陸ト共ニ居留民ノ保護 (イ) 上海附近及吳淞ノ要地・要點ヲ確保ス (ロ) 公大・新公園飛行場ヲ整備ス (ニ) 東溝灘・大康飛行場ヲ整備ス</p>	<p>(ハ) 滄口飛行場ヲ占領確保シ之ヲ整備ス (イ) 要地・要點ヲ占領ス (ニ) 青島・連雲港・芝罘・威海衛等ヲ封鎖シ敵船舶ヲ抑留ス 二 第五戰隊・第四水雷戰隊・第二十一航空隊・鳴戸・特運 三 第四戰隊・第二水雷戰隊・第二航空戰隊(第一聯合航空隊) (イ) 北支方面ニ派遣サルル陸軍ノ輸送護衛ニ任ズ (ロ) 前諸號ノ作戰ニ任ズ</p>
<p>第二艦隊司令長官</p>	<p>第二艦隊司令長官</p>

第一航空襲撃部	南支部隊	部隊
第一航空襲撃隊 (第二航空襲撃隊)	第九戰隊・第十二戰隊・第五水雷戰隊・第一潜水戰隊・第二十二航空隊・第一掃海隊・第十掃海隊・第一防備隊・鶴見・嵯峨・隱戸	
一 中支方面ニ在ル敵航空兵力ノ覆滅 二 中支方面ノ敵要地・重要施設等ノ攻撃	一 南支方面ノ敵艦船ノ監視處分 二 南支方面ノ敵船舶抑留 三 前進根據地ノ設營	處分 五 外征陸軍ノ輸送及輸送護衛
一 第一航空襲撃隊ハ作戰行動開始日未明、其ノ航空兵力ノ全力ヲ以テ杭州方面ニ在ル敵航空兵力ヲ急襲シ爾後引續キ中支方面ニ在ル敵航空兵力及要地・重要施設等ヲ攻撃ス 二 第二航空襲撃隊ハ北支方面ニ派遣サルル陸軍ノ海上輸送ヲ護衛シ後中支方面ニ轉用ス	一 馬尾・厦門・汕頭及廣東等ニ在ル敵艦船ヲ監視ス 二 之ヲ要スル時機ニ至ラバ前號艦船ヲ處分ス 三 前號港灣ノ外寧波・温州・三都澳・泉州灣・銅山灣・神泉港等ヲ封鎖シ敵船舶ヲ抑留ス 四 馬鞍群島ニ前進根據地ヲ設營ス	(ホ) 揚子江下流(南京下流)ニ於ケル水上管制、敵艦船ヲ監視處分ス (ト)(ハ) 揚子江口ヲ封鎖シ敵船舶ヲ抑留ス 派遣陸軍ノ上陸掩護 二 第三水雷戰隊 (ロ)(イ) 中支方面派遣陸軍ノ輸送護衛 右ノ外前號作戰ニ任ズ
第一航空襲撃隊司令官	第九戰隊司令官	

第一章 蘆溝橋事件

三〇七

考 備	空 部 隊		
	隊 部 襲 空 三 第	隊 部 襲 空 二 第	隊
<p>一 括弧ヲ以テ示セル艦船部隊ハ他所屬ヨリ一時編入ノモノ</p> <p>二 第三艦隊司令長官ハ當初全支ノ作戰ヲ指揮ス</p> <p>三 本表ノ外ニ第三第二艦隊司令長官ノ指揮下ニ白河方面ニ於テ陸軍ニ協力スル旅順要港部隊アリ</p>	<p>第一聯合航空隊</p>	<p>第一聯合航空隊</p>	<p>三 第一航空戰隊・第二航空戰隊飛行機ハ上海方面基地整備セバ之ニ進出ス</p>
	<p>一 支那内地ニ在ル敵航空兵力ノ覆滅</p> <p>二 支那内地ノ敵要地・重要施設等ノ攻撃</p>	<p>一 支那内地ニ在ル敵航空兵力ノ覆滅</p> <p>二 支那内地ノ敵要地・重要施設等ヲ攻撃ス</p>	<p>一 一部ハ濟州島ニ一部ハ臺灣方面ニ進出シ作戰行動開始第一日成ルベク速ニ南京・南昌方面ニ在ル敵航空兵力ヲ急襲ス(濟州島部隊)(臺灣部隊)</p> <p>二 爾後濟州島部隊ハ上海方面ニ進出シ共ニ支那内地ニ在ル敵航空兵力及要地・重要施設等ヲ攻撃ス</p>
	<p>一 中支及山東方面ノ敵航空兵力ノ覆滅</p> <p>二 青島・上海附近陸上戰闘ニ協力</p>	<p>一 先ヅ旅順方面ニ進出待機シ青島方面飛行基地整備ノ上ハ之ニ進出シ陸軍海上輸送ノ護衛ニ任ズ</p> <p>二 作戰行動開始日或ハ要スレバ其ノ以前山東方面ノ敵航空兵力ヲ覆滅シ要地・重要施設ヲ攻撃ス</p> <p>三 情況之ヲ許スニ至ラバ上海方面ニ轉戦ス</p>	<p>第一聯合航空隊司令官</p>
	<p>第二聯合航空隊司令官</p>	<p>第一聯合航空隊司令官</p>	<p>第二聯合航空隊司令官</p>
	<p>第三艦隊司令官</p>		<p>第二艦隊司令官</p>

作戰計畫案
ノ内示

同十二日軍令部ニ於テハ聯合艦隊第一航空戰隊佐世保鎮守府ノ各首席參謀ヲ招致シ、北支事變ノ經過及中央ノ意向ヲ説明シテ打合セヲ行ヒ、又第二艦隊及第二航空戰隊ノ各首席參謀ヲ招致シ、同様北支事變ノ經過及中央ノ意向ヲ傳ヘ、尙北支派遣陸軍輸送船ノ護衛ニ關シ第二艦隊首席參謀ニ左記要旨ヲ傳ヘタリ。

一 護衛區域

黃海及渤海

二 使用兵力

第四戰隊第二水雷戰隊第二航空戰隊第二聯合航空隊主トシテ之ニ當リ、爾餘ノ兵力ハ他任務ニ即應シ得ル様考慮ノコト。

三 護衛

- 一 一回使用兵力 飛行機二機直衛驅逐艦二隻程度。
- 二 人員輸送ヲ主トシテ軍需品ハ情況特ニ必要トスル場合ノ外考慮セズ。
- 三 警戒ヲ要スル敵兵力ニ對シテハ必要ノ護衛ヲ行ハス。
- 四 飛行機及芝罘、威海衛、青島方面ノ海上兵力。

第三篇 支那事變ノ發端

六 注意

我ヨリ支那側ヲ刺戟スル行動ハ避ケルコト。

三二〇